

世の中にあるたくさんの「本」を読んで、しっかりと人と、世界と関わって生きていけると思います。今まで本当にありがとうございました。
 令和2年度 愛知教育大学附属岡崎中学校 読書日より

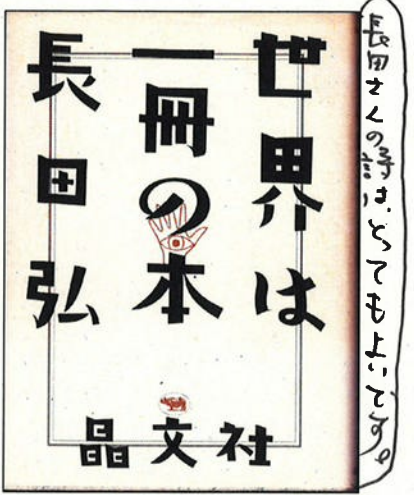
元祖 モリモリ書店

最終話 R03.03.30(火)
 「世界にあふれる
 たくさんの本を読もう。」

★今までご愛読いただき、本当にありがとうございました。ここまで、好き勝手やれたのも、皆様のおかげです。

応援していただいたかたに今までの「ありがとう」をこめて、最後は、一つの詩を紹介します。

紹介する詩は、『世界は一冊の本』（著/長田弘、出版/晶文社）に収められている表題作です。



この「モリモリ書店」は、本が好きな人はもちろん、そうでない人に「こんな世界もあるんだよ」「こんな見方もあるんだよ」ということを知ってほしくて始まった場所です。

ぜひ、世の中にある多くの「本」をどんどん読んでください。では、ごきげんよう。

★ 本を読もう。
 もっと本を読もう。
 もっともっと本を読もう。

書かれた文字だけが本ではない。
 日の光、星の瞬き、鳥の声、
 川の音だって、本なのだ。

ブナの林の静けさもハナミズキの白い花々も、
 おおきな孤独なケヤキの木も、本だ。

本でないものはない。
 世界というのは開かれた本で、
 その本は見えない言葉で書かれている。

ウルムチ、メッシナ、トンプクトウ、
 地図のうえの一点でしかない
 遙かな国々の遙かな街々も、本だ。

教科書にも
 のぞき、有名な詩ですわ。

★ すてきな詩をあかい糸金
 じゃまいて、ごめんさい。

そこに住む人びとの本が、街だ。
 自由な雑踏が、本だ。
 夜の窓の明かりの一つ一つが、本だ。

シカゴの先物市場の数字も、本だ。
 ネブド砂漠の砂あらしも、本だ。
 マヤの雨の神の閉じた二つの眼も、本だ。

人生という本を、人は胸に抱いている。
 一個の人間は一冊の本なのだ。
 記憶をなくした老人の表情も、本だ。

草原、雲、そして風。
 黙って死んでゆくガゼルも又ーも、本だ。
 権威をもたない尊厳が、すべてだ。

2000億光年のなかの小さな星。
 どんなことでもない。生きるとは、
 考えることができるということだ。

★ 本を読もう。
 もっと本を読もう。
 もっともっと本を読もう。

★